滑川市教育センター便り

発行　　令和６年９月 10 日
滑川市教育センター　第 12 号

「令和のとやま型学力向上プログラム」研修会

８月 21 日（火）、早月中学校ふれあいホールにて、「『令和のとやま型学力向上プログラム』研修会」を行いました。東京学芸大学 教育学部 准教授 大村龍太郎 先生を講師にお迎えしました。市内小中学校の先生方が参加しました。

大村先生からは、「子どもが豊かに学びを深める授業を考える　～『課題解決のための読み解く力』や『自己調整』とつなげて～」という演題でご講演いただきました。

(1)　指導講話

①　自己調整しながら学習を進めることができるように

大村先生

日々の授業では、個別に適した課題を提供することもあります（例えば練習問題等）。しかし、ピンポイントでの課題提供は、子どもの「受け身」につながりかねません。したがって、**自己決定の機会を大切にする**ことがポイントになります。教師の指示と子どもの自己決定のバランスを考えながら、**子どもを信じる**ことが大切です。

あなたはこの問題をやるといいよ。

課題提供し続けてしまうと…

先生、ぼくに合う問題もってきてくれないかな。

受け身に…。

じっくりコースの方が…。でも、しばらく見守ろう。

ぐんぐんコースに挑戦！

ぐんぐんコースの問題難しいな…。次は、みんなと相談しながら勉強する、じっくりコースを選ぼう。

「学び方」を学ぶ子供に

②　読み解く力を高める手立てについての一例（国語科「カレーライス」の授業を例に）

大村先生

読みを深める「問い」を設定します。「ただ考えなさい」ではなく、複数の叙述を**比較・関連付ける**考え方を指導します。（子どもたちは）それを方略として生かしながら読んでいきます。

問い
「なぜ『お父さん』と『ぼく』は仲直りできたのか」を読もう。

考え方を指導
ちがうところと比べたり**（比較）**、似ているところをつなげて**（関連付け）**、『お父さん』『ぼく』がどんな心情になったのか考えるよ。

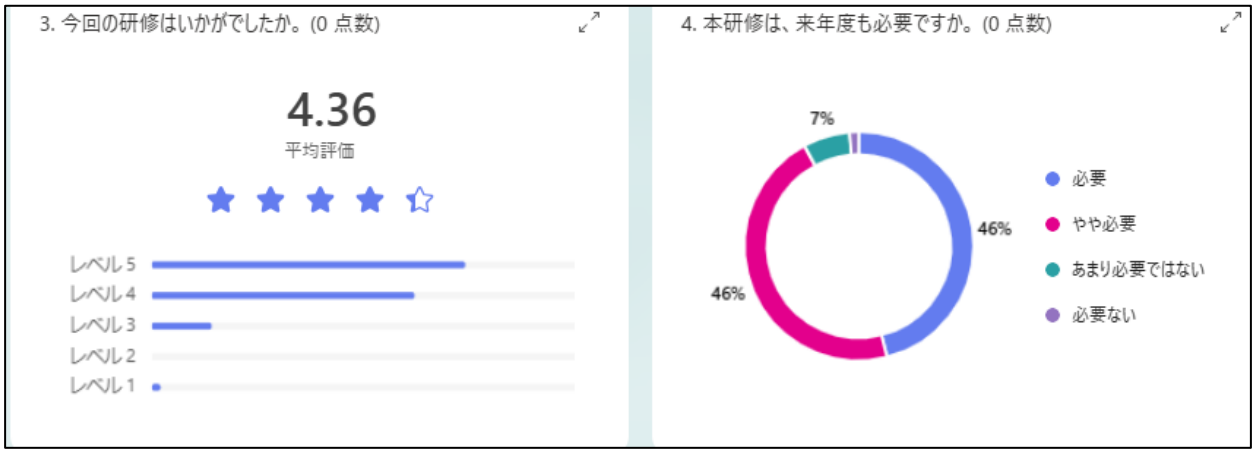
○着目した『お父さん』の言葉**（関連付け）**
・「ひろし、それ中辛だぞ。からいんだぞ。」
・「そうかぁ、ひろしも『中辛』なのかあ。」
○お父さんの心情
・ひろし（ぼく）が成長していることがうれしい。
○ぼくの心情
・自分の成長が分かってもらえたことがうれしい。
○仲直りできた理由**（この子なりの深い読み）**
・２人の気持ちが通じ合ったからだ！

大村先生からは、国語科以外の授業例も示していただきました。授業づくりについて具体的にイメージすることができました。受講者の先生方からは、「子どもが自己決定できる授業となる

よう２学期工夫したい」「学びのコントローラーを子どもに委ねることの大切さが分かった」などの感想をいただきました。

滑川市では、探究・科学教育推進の１つに、読み解く力向上を掲げています。基礎学力向上部会（各校の研究主任で構成）を年に３回開催し、児童生徒のつまずきを分析したり、読み解く力向上の手立てについて話し合ったりしています。各校におかれましては、どのような手立てが読み解く力向上に有効であったか、日々の実践の中で、研修を重ねていただきたいと思います。

(2)　事後アンケートより　(76 名回答)



感想（小学校教員）

学校では、２、３年前から個別最適な学びとしてコース別学習に取り組んできたが、今日の大村先生の講話の中にあったこのコースがあっていないと感じる子供の姿を見ることがありました。その際の対応に困ることもあったが今回の話を聞いて、やってみて子供自身に選択し自己調整させたらよいということがわかりました。ただやらせっぱなしにならないように、子供たちが考えたくなる課題の必要性も感じたので、これからの学習構想にいかしていきたいです。
「個別最適な学び」「協働的な学び」など、様々な言葉があふれて何を大切にしてよいのか迷うことがあります。今日のお話を聞き、「子供の学びを深める」ためにどうすればよいかが大切だと分かりました。また、「主体的な学びをつくるためには、子供に決定権があることが大切」「自分に決定権があるから自己調整ができる」「失敗も自己調整には大切なこと」「授業のゴール（目指す子供の姿）から、授業構想をしていく」など、今後に生かしたい内容が幾つもありました。貴重な研修会の場をありがとうございました。
実践の具体的事例も入れて分かりやすい講演でした。また、大変有意義な内容で参考になることが多くありました。ICT 活用の考え方や授業における個別最適な学びの場や場面の捉え方についての話が大変学べた講義でした。ありがとうございました。
とても分かりやすく、具体的なイメージをもちながら講演を聞かせていただきました。大村先生が言われたように、様々な教育に関する用語について正直、よく理解していません。特に自己調整については教師が手を出しすぎないことが大切であるととても感じました。自分を振り返ると、手を出しすぎていて、子供の自己選択の機会を失っていました。２学期以降、意識して取り組みたいと思いました。本日はありがとうございました。
オンプレミスでなく、クラウドが前提だということが改めてよく分かりました。 授業ではクラウドを使って他者参照ができるようにしています。さらに、自己調整力ができる子供を育てるために、様々なアプリを試してみたいです。使い勝手が悪いアプリ等は淘汰されていき、よいものだけが残るはずです。自分自身も子供たちも「習うより慣れろ」が大事です。今後、複線型の授業を作っていくためにも、様々なアプリ等を使い、コントローラーを子供たちに委ねていきたいです。
子どもが学びを深めるために、自己決定性のある授業をつくること、真の学びのコントローラーを子どもの手に委ねることの大切さが、各教科の具体的な実践を元にしたお話でよくわ

かった。自己調整を子どもに求めるには、教師自身も１時間１時間の授業において、自己調整を図って行くことが大切だとの話も、大変参考になった。
具体的な事例が多くあって、どんなふうに工夫できるのかがよく分かりました。本校は、先生方みんなで読み解くとはどういうことか毎日のように話し合っています。目の前の子供たちの実態があり、先生方の思いもあり、先生方が、同じ方向を向いて明るく前向きに試行錯誤していること自体に意味があるなと改めて思いました。これからを生きる子供たちには、もっと 言葉を大事にして 人・もの・ことを 理解し 発信できるようになってほしいと心から思います。何を大事にしたいのか、ねらい、教師のメッセージをしっかりもって、計画をたてて、まずは子供に任せてみたいと思いました。子供たちがもっともっと豊かに試行錯誤しながら、自ら気付いて、自ら学んでいけるようにしていきたいと改めて思いました。

感想（中学校教員）

これまで数々の研修会を受けてきましたが、今までで一番興味深かったです。このような内容の研修会であれば来年も必要だと思います。私自身、教科書の学習課題に頼ることが多いため、少しでも生徒の興味を引けるような課題の設定をできたらいいなと思いました。なかなか引き出しがないので、調べてみたいと思います。また、教科でも、普段の子どもとの関わり方でもそうですが、子どもにさせてみることを大切にしていきたいと思います。今日の話なら何時間でも聞けると思いました。ありがとうございました。
ゴールの設定、その為の手段(方法)、流れのイメージという 3 つの優先順のこと。コントローラーが生徒にあるか。タブレット等のツールは「便利(メリット)」 があるから継続的に使われる。教員が便利と感じたことは生徒にも便利で使ってもらえる。これらが印象に残っています。部活や数学の授業に当てはめて聞いていて、コントローラーを渡す機会が足りないようにも思えた。そこを日々調整して生徒が自分(たち)の設定したゴールに近づいていくループを促進していきたいと思いました。残りの期間ですぐ出来ることで意欲が高まりました。